

洋書輸入協会会報

VOL. 3

NO. 8

昭和44年8月

理事会報告

7月11日(金)

(一) 総務委員会より。

6月分収支計算書・予算対比表検討。特に問題とするものなし。

(二) 学校紛争対策委員会報告。

(三) 通関委員会報告。

(1) 7月3日、委員一同にて東京税関・外郵出張所を訪問、所長及び新任の方々に挨拶、懇談の件。

(2) オリジナル・インボイスを2通以上送附するよう要望する手紙の原稿検討。

(四) British Week 委員会報告。

(1) 科学博物館の展示についても、即売を行いたい旨の英国大使館担当官よりの申し入れがあり、協力することとする。

(2) Book Development Council からの来信によると、万国博期間中にも、会場に英国書のコーナーを設けたい由。関西支部へ検討方依頼することとする。

(3) その他多数連絡事項。

(五) Cable Address の件。

当協会事務所にも、Cable Address を設けておくべきだとの提案あり。早速登録することとする。

(六) 京大数理解析研より照会の件とその返事の件につき検討。

(七) 印度 Impex India より取引希望あり。名簿新版出来上り後送附することとする。

(八) 三修社問題検討。

7月28日(月)

(一) 特別会計運営の検討。

割興50万円は乗りかえ。大和投信50万円は継続と決定。直ちに手続きを行う。

(二) 関西支部、丹羽支部長より連絡事項。

7月21日(月)、国立大学図書協会の書籍・雑誌購入調査委員会に出席、換算レート等につき説明した。

(三) ドイツ書展について。

ドイツ大使館より伝言あった由にて、出版文化国際交流会より連絡があった。

(1) 現品及び陳列台等は、既に大使館宛送り出されている。是非洋書輸入協会の協力を願いたい由。協会の意向を御返事頂きたいとのこと。

(2) 展示会スケジュール。

9月16日～9月22日……国会図書館

9月26日～10月7日……東京大学総合図書館

10月16日～10月21日又は27日まで……大阪、House of Science & Humanity

11月3日～11月7日……愛知文化会館

11月19日～11月30日……京都国立近代美術館

関西地区へは、既に神戸・ドイツ領事館経由説明済の由。

(3) 検討の上下記の通り返事を行うこととする。

British Week と期間が重複し、且つ以前より此のために多大の労力を提供しているため、精神的援助は惜しまないが、実質的援助は困難であろう。その範囲で出来るだけ協力する。尚、ドイツ書専門店各位の意向も打診することとする。

四 フランス書展示会について。

三洋出版貿易へ、フランス大使館より、今秋フランス書の展示会をやりたいとの電話があった由。詳細は近く通知するとのこと。

(㉔) 通関委員会報告。

(1) J B I A No. 70 「輸入貿易管理規則の一部改正について」配布の件。

(2) 税関よりの要請により、アウトサイダーよりの問い合わせに備え、上記コピーを80部、税関へ届けておいた。

(記) 税関に備えつけるよりも、寧ろ協会事務所に備えつけて問い合わせに応じた方が良くはないかとの意見が出る。

(3) オリジナル・インボイスを2通以上送附させたいための手紙の配布に関する件検討。

(㉕) 学校紛争対策委員会報告。

(㉖) British Week 委員会報告。

8月上、中旬の中に、委員会にて実行分科委員会のメンバーを検討、組織作りをしたい旨を報告の上、諒承を得る。その他連絡事項多数。

(㉗) 三修社問題報告。(ゲーテ書房村山氏出席) 落着の件及び今後ドイツ書専門店間の連絡・懇親を深めたい件。

(㉘) 洋書交換委員会報告。

秋季合同セールの期日を10月14・15・16日に変更の件。

(㉙) 文化厚生委員会より。

協会主催、フランクフルト書籍市見学会のメンバーを是非もっとふやすよう要請あり。

(㉚) 8月中の理事会は休会とする件。

関西支部だより

(1) 7月21日(月)

国公立大学図書館協議会の研究会に支部長出席し書籍雑誌輸入の現状等について解説した。

(2) カタログ委員会三回開催。

尚 7 月末に最終方針決定したので本部及び会員に通知。

(3) クレジットカードは数社参加で発足しました。

(4) 海の家は好評裡に開催中。

会報委員会より

年に一度の会報委の旅行（兼一泊編集会議）の今年の行先は大洗海岸ときまりました。7 月 6 日（日）午後上野発の列車に、委員長相良氏（紀伊国屋）をはじめ木下氏（丸善）後藤氏（教文館）一条氏（極東書店）鈴木氏（メクレンブルグ）寺久保氏（協会事務所）が乗組みます。（川島、東販）（平岩、アカデミヤ）（宮島、三省堂）の三委員は欠席）

マジメ委員長の下にマジメ委員はなく、車中早速、集まった原稿の廻し読みやら、校正刷の読み直し。東海道新幹線と違って、同じ特急でも常磐線のそれは動揺が激しく、そろそろ老眼鏡の必要な委員諸氏にとって、あまり楽な仕事ではないようです。「原子力羊羹」の立看板を横眼に、水戸からバスで大洗へ。ホテルに着いて一風呂浴びると、休む間もなく編集会議が開かれます。畳の上にあぐらをかいて浴衣がけ、というのを除けば、毎月東京の協会事務所で開かれるのと少しも変らない風景がそこに展開します。特別記事のテーマの決定、執筆者の選定、会員紹介等の記事の原稿集めの分担等々毎月やっていることは、さすがに発足以来一年有余の経験がものをいって快調なペースで運ぶのですが、さて何か新しい企画は——となると一同頭を抱えてしまいます。マンネリズムにおちいらず、紙面に少しでも新味を、と考えている我々にとって、これはいつも頭を悩ます問題です。創刊以来毎月の紙面を賑わしてきた「会員紹介」も今年一杯で終りそうだし、それに代る企画も樹てなければなりません。会員の皆様の声をもっと聞かせていただけたら、そしてお智慧を借していただけたら、と思わずにはいられないところです。いさゝかうら話になりますが、創刊当時は原稿が集まらず、紙面を構成するのがやっと、という時もありました。「一度位原稿を没にしてみたい」というのが偽わらざる委員の願いでしたが、幸い最近では増頁の連続で、この程の嘆きは少なくなりました。しかし、寄稿も含めて、まだ一度も原稿を没にしたことはありません。

それはさておき、冷酷無情なメ切日という奴を前にしては、たゞ頭を抱えている訳にもゆきません。次号の形がどうやら整い、幾つかの新企画が検討された後で、「ではそろそろメシにしますか」とやっと委員長の声がかかりました。

新鮮な海の幸の溢れた食卓を囲んで楽しい夕食が始まります。アルコールにはあまり強くない、というよりは、ビール一杯で顔を真赤にしてしまうような委員が揃っているのも、食事中の話題もいたって温和しく、各人の趣味の話やら業界の情報の交換などがつぎきます。協会に委員会制度の設けられた目的は、その委員会固有の活動もさることながら、すべての会員が委員として参加することによって、業界や理事会の動きを身近にとらえることにあったわけで、その点この会報委など、理想的な成果をあげているのではないかと思います。どこそこの会社が新しい仕事で業績をあげている、等という話が出た途端、「そこから会報に広告ももらえませんか」と、誰かが商売気のある声を出したので、一同どっと笑い出しました。

あまりマジメなお話ばかりなので、夜の時間位ナンゾオモロイ話が出るであらう、と期待される読者もあることでしょう。ところがこのホテルの建っているところが、大洗磯前神社の一の鳥居を潜ったところ、いわば神域で、パチンコ屋もないところです。そこで一同卓子をかこんで、木下氏持参の Joint Play という一種の英字パズルに興ずることになり、配られた英文字を使って単語を組み立てゝゆく、なかなか知的な面白いゲームですが、手持の文字が足りなかったり、単語の綴を忘れてしまったりで、会社では社長・部長といわれる委員連が、首を捻ったり、うなったりするさまは、はたから見ればマンガかもしれません。

翌朝は小雨の中を大洗神社に詣で、協会の発展と業界の繁栄を祈り一路帰途に。真昼の上野駅から各自のオフィスに直行という、マジメ委員会のマジメ旅行でありました。（文責・鈴木）

経営研究会 ひらく

— 高橋日本事務能率協会常務理事を招いて —

協会経営研究委員会では去る7月11日日本出版クラブで経営を発展させるための事務の合理化（機械化）についてというテーマで、研究会を開催しました。日本事務能率協会の高橋松三郎常務理事が講師として出席、約60名の参加者は熱心に聴講・質疑応答を行ないました。

会はまず、石内茂吉経営委員長（東光堂書店社長）が開会のあいさつを行ない「高能率、高収益は企業の使命であり、いま事務能率向上の問題を研究することはとりわけ時宜にかなっています」と強調しました。

続いて講師から別稿のとおり講演がありました。洋書輸入という同業種でも各社はそれぞれ社歴・経営方針などを異にしており、講師はこれら各企業に共通する事務能率化への基本的な考え方について述べました。質疑応答のなかで、参会者から、業界に共通する具体的な事務の標準化について、いま一歩突っこんで検討・指導して欲しい、協会としてこの問題に取り組んで欲しい、と強い要望がだされました。

★速度・正確・容易・低コストの追求

事務は企業活動と結びついている。事務費用を低く抑えることは経営を消極面から発展させることになり、多少費用がかかっても、次の経営発展へのデータを事務処理のうえで作りだす——事務の生産物——ならば、積極面で経営を発展させることになる。

事務はそれ自体が目的ではなく、ある目的をもっている。この目的に対し、事務費用がバランスしているとき、事務は能率化されていると言える。さらに、事務は目的に対し、タイムリーであることが必要であり、これが事務の速度の問題である。つぎは正確さの問題であり、これは速度と矛盾するが、このバランスのとれていることが、事務能率の高さを意味する。さらに、速度と正確度を高く維持するため、大きな苦勞が伴うとすれば長続きしない。楽に処理できる方法を考える必要がある。この点については、日本ではまだまだ無関心であり、担当者責めるだけになっている。

このように、事務を安くあげることが必要であるが、このばあい、目先のことだけを考えず、比較的長期にみた低コストを考えねばならない。事務の原価要素で、オーに着目しなければならぬのは人件費であり、人の持ち時間をどう活用するかが重要である。同時に、事務の能率化とは人間をいじめることではなく、事務処理をもっと楽にやるにはどうしたらよいかを検討すべきである。

以上の成果をもたらすにはどうしたらよいか。

★事務の標準化、誰にも走れるルール

まずオーに、毎日の事務の実態を正確に把握すること。現在の事務の手順その他を明らかにし、不急不用の事務を発見する。つまり現行の事務を再評価し、標準化して、新しいルールを敷くこと。このルールはベテランでなくても

誰にでも走れるものでなければならない。事務のメイン・ストリートは誰にでも分らなければならない。経験者でなければ走れないレールが多ければ多いほど、優秀なセールスマンを事務に釘づけにすることになりコスト高となる。日常のきまった事務は経験者の手からははずす必要がある。

実体把握のプロセスでつかんだ材料・データが実際に役立っているかどうかを検討する。これは個々の事務の再評価であり、この結果、不必要なデータ、カードなどは作らないようにし、不急のものはあきらめること。

★同種類の事務を散在させぬ。

次に、事務の機能的専門化をはかり、一連の仕事のなかに、同じ種類の事務が散在しないようにする。例えば、計算という作業機能を各部門に散在させず、これを一本にする。また、単行本と雑誌は一般に、販売機能は一本であるが、事務の面でも同じ考えでこれを一本化したほうが良い。一人の人間に多くの機能をもたせるのは良くない。異質の機能を多くもたせると、経験者でなければできない。

そして、以上のことが、事務機械化の土台となる。こうしたことを面倒がらずにやらなければ事務能率化はできないし、この土台がなければ、真の事務機械化もない。

★いますぐできる整理整頓。

事務機械化の前に、金をかけずに、いますぐにでもできる事務能率化は、よく言われる整理整頓である。書類が必要とき、係りがいなくてもすぐだせるように整理整頓しておくことが最も重要である。書類を探すことは仕事ではなく、不生産時間だということを銘記すべきだ。「あの書類を探してこい」、「はい、探してきました」、「どうもご苦勞さん」などというやりとりは全く馬鹿げている。

要は、企業の利益率を高めるうえに必要なデータは何か、毎日、あるいは毎月必要なデータは何か、このデータをどのようなプロセスで作りあげるかを明らかにすることである。経営者としてどんな報告書が必要かを決め、それにもとづいて原票とデータ処理のルールを決定すれば良い。

★同じ手順を繰り返さぬこと。

（以上で質疑応答に入り、そのなかで講師は更に次の諸点を強調しました。）

事務能率化では、人間の時間、作業時間を節約する観点を貫くことがたいせつである。例えば、売上げと請求の同時記帳、あるいは、売上台帳のコピーによる請求書作製など。同じ手順を二度繰り返さずことは避けるべきだ。従来のやり方では事務量はふえる一方であり、業務拡大を事務処理で喰われては何にもならない。

事務には各種のケースがあり、標準化は困難だという意見もあるが、特殊なケースにこだわると、標準化はできない。最もウェイトの高いところを標準化し、特殊なケースは例外処理にすべきだ。（文責＝東光堂書店 川越）

洋書購入いまむかし

波多野 完治

わたしは旧制高校で「フランス語」をオー外国語とする、いわゆる「文丙」をやったので、ドイツやオーストリーのインフレーションの恩恵はあまりうけなかった。わたしより二、三年先輩である森五郎（羽仁五郎）や、村山知義、それに若く死んだ池谷信三郎などという人びとは、ドイツのインフレーションを利用して留学し、それぞれ貴重な収穫をもってかえってきた人である。ドイツへいかなくとも、当時の読書学生はドイツ書が安く入手できたので、ずいぶんいろいろな本をよんだようだ。しかし、フランス書生のわたしどもは、指をくわえてみているよりほかはなかった。

そのフランス語専攻の学生にも、本が安くかえる機会が、たった一度だけおとずれたことがある。それはオ二次大戦のまえ、フランス政情の不安から、フランが約十分一にさがったときだ。このときは、なにしろ、1フラン38銭したフランが、三銭から五銭に下ったのだから、貧乏書生の身でも、その余得は大きかった。いわゆる松方コレクションが今日の蒐集をなしえられたのも、このときのフラン暴落がはずかって力があつたようだが、わたしたちも、このときばかり、いままで高嶺の花と手が出なかった「豪華版」をせっせと買うことにつとめたものだ。

しかし、日本のフランス書取扱店では、フランの建値にに応じて本の値段を急速にあげさげしない。いや、上げる方は急速で、たいてい、その翌日から値段表示がかわったが、値さげの方になると、数日または数カ月おくれる。この傾向は大手筋の輸入業者ほどおそかった。

当時、神田にはフランス書の輸入店が二軒あった。一軒を「フランス書院」といい、他の一軒を「三才社」といった。フランス書院の方は、いまの中央大学の前通り、運動具店のミズノの近所にあった。三才社の方は仲通りの「東洋キネマ」のまえの辺にあった。いずれも大正12年の関東大震災でひどくやられ、五、六十冊の本から再スタートしたので、経営はくるしかったのではないかとおもわれる、しかし、主人達がいい人で、わたしどもが、

「フランが下がっているのだから、負けてくれや」というと、いやな顔ひとつせず、値びきしてくれた。

しかし、大手筋の方はなかなかこうはいかない。わたしたちが数人して出かけ、相当しつく掛けあってもだめだった。

これではだめだ、グスグスしていれば、本を安くかう機会を失ってしまう、というので、わたしどもは、直接フランスの本屋と取り引きを開始することにした。

まず、本屋だが、これは、当時わたしどもにフランス語

を教えてくれていたカトリックの修道士の手引きで、ガブリエル・ボーシェヌ、とした。あとでしつたところでは、これはカトリック系の途方もなく大きい本屋で、こんな大きい本屋が、よくわたしどもの2フラン3フランという本の注文をあつかってくれたものだ、とおもう。

このボーシェヌ書店へ、千フランないし二千フランをデポジットする。本を注文すると、書店ではそこから相当金額を引いて本をおくってくれる、というしかけであった。ボーシェヌでは古本もあつかってくれたし、新本はすべて一割引というのが、貧乏書生には大きな魅力であった。

だが、この方法もまもなくやめなければならなくなった。それは、日本が為替管理の体制に入り、われわれ民間人がフランを買うことが不可能になったのが大きな原因だが、そのほか、このやり方だと新刊を「見て」買うことができない、というのがオ二の理由だったとおもう。

心理学のような、新興の学問では、新刊に接することは専門家の最大の要求である。新刊カタログでも書名はわかる。しかし、その本が、どれくらいの「重み」をもつものなのかは、カタログや新刊案内ではわからぬことが多いのだ。で、われわれは「新刊批評」のでのをまつわけだが、これは数カ月からときには一年以上おくれる。本を入手してから、もっと早くみておけばよかった、とおもうことが一再でないのだった。

ときには、一年後の一読書より手もとの二読書、というわけで次善の本でものを書かなければならぬこともある。

日本のような土地がらでは、外国のよい本を「じっさいに手にとって見る」機会をあたえてもらうことが絶対に必要である。これは取次業者には非常に大きな経済的負担をかけることになるので、気の毒だが、日本の学問がおくれないために、ぜひやってもらわねばならぬ。

とくに大切なのは、あまり広告や事前の宣伝のいきとどかぬ「政府刊行物」や「報告書」の類である。こういうのはねだんが安く、そのかわり破損ししやすい。つまり陳列に不向きなのである。またマージンもすくないことであろう。しかし、こういうものこそ、いちばん「手にとってみたい」ものなのである。外国へいって友人たちに会うと、ただでもらえる機会が多いのが、この種の刊行物だが、そうたびたび外国へいくわけにもいくまい。また、こっちからなにもやるものがなくて、ただ「クレクレ」では、現在の日本の水準として、いかがなものであろうか。どうしても、相当な対価をはらって入手する方法を考えるべきなのである。

こういう種類の陳列場が、なるべく早くできることがのがぞまれる。（お茶の水女子大学長・心理学）

洋書こぼれ話

昭和初年——1930前後

丸善本の図書館長 八木佐吉

C. O. D. の新版: The Concise Oxford Dictionary of Current English. Adapted from the Oxford Dictionary 略称 C. O. D. は才1版を1911年に出版して以来、すでに20年近くをへだてた。その間、僅かに New- words 等を Addenda として数頁を補遺していたにすぎなかった。しかし、ようやく1929年に H. W. Fowler による増訂版が完成して、同年7月に入荷した。総1460頁となり、旧版に380頁を加えた日本価は¥3.75(原価7s. 6d.)

このあと、才3版 C. O. D. は、比較的に間をおかないで1934年に刊行された。丸善では約35,000部を販売したといわれている。この才三版が Addenda を附録して1949年までつづく。ついでに戦後のことにふれると、才4版が1951年に完成。この版が補遺を附して1962年まで出版され、現行の才5版が1964年に新刊されて今にこの版で売られている。

このC. O. D. と1924年産れのP. O. D. こと Pocket Oxford Dictionary の末弟ともいうべき、L. O. D. 正確には Little Oxford Dictionary of Current English はご存じの小型掌中英辞典である。この新辞典が Oxford Dictionary Group の一員となったのは1930年4月のこと。わが国への初入荷は同年7月であった。9×13cmの小型の可愛い英々辞典。それに626頁もあって売価が赤クロスは School edition といって僅か85銭(1s. 6d.)、ブルー色クロスは1円(2s) といった廉価なので当時の中学生程度の学生には大歓迎されたものである。

序でに P. O. D. その後にふれておこう。本誌2月号に P. O. D. の初版が1924年に出版されたことを書いたが、その後満10年目の1934年に増訂才2版が出て、1939年に3版1942年に4版と比較的短期間に改版されている。しかし戦後はたしかこの4版のまゝで20数年を見送って、今年の改訂才5版となったのであろう。

社会科学書の範疇では、Seligman の Encyclopaedia of Social Sciences については“大物洋書”として本誌5月号に既述した。経済学の事典では、Palgrave's Dictionary of Political Economy が名著として生命が永くつづいている。1894-96年の初版を1923-26年に増補改訂して、ロンドンとニュー・ヨークの両マクミラン社から出版した版がそのまゝ戦後に至って絶版となった。この版は3巻約3000頁、1930年頃約60円。最近Kelley社から reprint 版が出た。

ドイツ語では L. Elster 編の“Wörterbuch der Volkswirtschaft”が才4版を30分冊で出すと Jena の Fischer 社が発表した。毎月2分冊を刊出各冊2円25銭。約3,300頁1933年完結の予定で予約募集が始まったのは1930年のこと。

この本はドイツのスタンダード経済事典とも謂われている基本文献である。当時の広告文に“3版以来20年、その内容の転換躍進せる恰も戦後より現在に至るまでの経済社会の諸事相、新問題の変革新化を誌し……”云々とある。

同社では別に Ludwig Elster, Adolf Weber 等の編集に依る“Handwörterbuch der Staatswissenschaften”の才4全訂改版8巻の大冊を1923年から1929年にかけて既刊しておる。この世界一といってもよい歴大な政治事典は1890年以来的出版歴をもつ文献である。

また、この頃ドイツ Halle の Malhold 社から F. Giese 編の“Handwörterbuch der Arbeitswissenschaft”が16分冊、(各¥4.50)で予約出版されている。これは完結後は2巻に纏められた。

単行本経済書では、ロンドンマクミラン社から Paul Einzig の“The Fight for Financial Supremacy”1930.(7s. 6d. ¥3.75)、“International Gold Movements”1929.(6s. ¥3.-)や“The Bank for International Settlements”3rd ed. 1932.(10s. 6d. ¥5.25)等20点以上の国際金融文献が同一著者アインチツヒの稿で出ている。面白いことに、著者はこれらの中で「ロンドンは世界銀行業の中心地として将来共、覇権を保持し得るや?」について、ロンドン、ニュー・ヨーク、パリそれぞれの金融現勢につき仔細に批判検討を加へ……ロンドンはその地位を保つと結論」しているとこれら文献の紹介は伝えている。爾來30数年の歳月はこのの推断を如何に結着したであろうか。現実が示している如くである。

John Maynard Keynes の“A Treatise on Money”2巻は1930年11月にマクミラン社(ロンドン)から出版され、丸善には翌1931年正月相当部数入荷したが即日売り切れとなった。代価は30s. 15円。この貨幣論は、上巻は The Pure Theory of Money、下巻は Applied Theory of Money とそれぞれに表題がつき2冊あわせて800頁を超える大冊である。この本は今日でもマクミランから1930年版のまゝ出ている。たゞし定価はたしか84s. と上っている。

この当時は筆者などはケインズの何たるかを識らず、むしろアインチツヒの余りにも次々と出てくる諸々の本に驚きを感じていたことを思い出す。ケインズの Treatise on Money は、わが国へ輸入直後から学界金融界に大評判となったことは昭和10年版の大阪商大経研編の「経済学文献大鑑」に載っている批評、紹介及び翻訳等が多いことで判る。鬼頭仁三郎訳の「ケインズ貨幣論」5巻は同文館から昭和7-9年にかけて出ていることをつけ加えておく。

少し年代がとぶが、ケインズは1936年に名著“General Theory of Employment, Interest and Money”を同じく英マクミラン社から刊行した。この頃(1936年)は1シル85銭となっていて、このケインズの新著は原価5s. が邦価は4円25銭となっている。塩野九十九訳の「雇傭利子および貨幣の一般理論」が東洋経済新報社から出版されたのは昭和16年12月(1941年)のこと。原著はロンドンで1936年2月の出版であるから、数えるまでもなくこの間5年近くも経っている。ドイツカーの“Age of Discontinuity”の原書

が日本の本屋に着いたか、着かないかのあつという間に、「断絶の時代」の邦訳名で出版されるのが当り前のことのようになった今日からみれば、如何にものんびりしたものである。

この頃印象の深かった洋書の一つ書き留めておく。それは例の皮肉屋の大作家 George Bernard Shaw が1928年に著わした“The Intelligent Woman’s Guide to Socialism and Capitalism”と謂う8折530頁程の本。これの新装廉価版が昭和5年6月頃入ってきた。Constable 版でアザヤカナ黄色のジャケットに黒インキで著者名と書名がくっきりと出ていたのが、今に目にのこっている。これは先般出版の「丸善外史」の壁頭にあるパアナード・ショーの1934年来日の記事で更めて思い出したのである。

この辺で一寸より路をして、この当時、つまり1930年前後に欧米で出版された邦人の欧文著書について、気付いたまゝを記しておこう。

まず、新渡戸稲造博士が“Japan; Some Phases of her Problems and Development”というタイトルで母国の近状を書いておられる。この本は1931年版で、8折本約400頁、“Modern World”シリーズ中の一冊として、ロンドンの E. Benn 社の出版 (18s. ¥9.)。

新渡戸先生の略伝：文久2年(1862)盛岡藩の武士の家に産れ、明治になって札幌農学校に入り、17年渡米し Johns Hopkins 大学を卒業し、更にドイツに留学して明治24年帰国した。母校札幌農学校、京都大学教授ついで、第一高等学校々長、東京女子大校長、この間農学及び、法学博士の両学位をとり、また、学士院会員、貴族院議員にも推された大学者。世界的知識人として平和論者としての名声が高かったためか、世界大戦の結果として産れた国際連盟 (League of Nations) の書記局次長の要職を托されて、大正8年(1919)からジュネーブの国連本部に席をおき、日本人としては異例な程の国際的の仕事に仕遂げて、同15年(1926)に辞された。帰国されて後は Institute of Pacific Relation of the Japanese Council のチエアマンをつとめられ、1929年同協会の日本大会の際の刊行書“Western Influence in Modern Japan”なる論文集を編集され、ご自身は“Two Exotic Current in Japanese Civilization”なる一編を記述している。(この本は別にシカゴ大学から1931年出版された)。博士は1933年アメリカ旅行中カナダのヴィクトリアで病歿せられた。

博士が“Bushido; the Soul of Japan”の名著に依ってわが武士道の真諦を世界に知らしめたのははやくも、既に1899年のことであった。この“Bushido”は今日でも Reprint されているやも知れないが、出版直後から世界主要国語訳が出され、また英語の原版も最初のフィラデルフィア版、ロンドン版、東京版といろいろのリプリント版がある程の世界中で注目された日本思想及び観念の紹介書として永久の生命を持つ名著である。その他 Japanese Nation; its Land, its People and its Life. 1912. New York, Putnam 版、Japanese Traits and Foreign Influence.

1927. London, Kegan Paul, The Intercourse between the U. S. A. and Historical Sketch. 1891. Baltimore, Johns Hopkins. が主要著作である。なお、1934年に遺稿“Reminiscences of Childhood in the Early Days of Modern Japan”が Mary 夫人の校訂で丸善とロンドンの Luzac から出版された。

1929年に Yale Univ. Press から“The Documents of Iriki; illustrative of the Development of the Feudal Institutions of Japan”という書物が Asakawa Kanichi 著として刊行された。その当時はアサカワという著者もイリキという字も共にはっきりつかめなかったが、この本は大した文献であったのだ。著者は朝河貫一、書名は入来文書。九州薩摩の入来院関係の古文書の研究で、日本の武家^{イリキモン}法制の性質と変遷を調べて、英文で記述した著書で、比較法制史、封建制度研究の金字塔であった。出版当時目立った売行きではなかったと覚えているが、終戦後、(昭和30年)日本学術振興会の手でリプリントされた。朝河貫一博士(1873—1948)は福島二本松の生れ。東京専門学校(早稲田大学の前身)を卒業し、直ちに渡米ダートマスとエール両大学に学び、エール大学で教職に就き、日本史及びヨーロッパ中世史を講じること36年といわれる、世界的封建制度史学者。また、Webster 大字典 New International の 2 版の special editor for Japanese terms の役もつとめている。博士はアメリカで病歿した。

1930年ドイツの Springer 書店から Takabeya Fukuhei 著 Rahmentafeln (Mk. 17. ¥8.50) が出版された。当時としては世界一流クラスの出版社 Springer から日本人の本が出たことだけでびっくりしてしまった。鷹部屋福平博士は大正8年九大卒の橋梁及び構造工学の大家。北大、九大の教授を長らく勤め、戦後は防大教授となった。また、日本庭球協会の役員にも就いたスポーツマン。

昨年(1968)イギリスで reprint 版の出た Takekoshi Yosaburo. の“The Economic Aspects of the History of the Civilization of Japan”がロンドンの Allen and Unwin から出版されたのも1930年のこと。これは3巻で Royal 8vo型、XXX+1557頁、当時31円50銭(63s.) もした大部な著書であった。竹越与三郎先生(1865—1950)は慶応出の政治家、歴史学者、またジャーナリスト。時事、国民新聞、「世界の日本」等々に筆を執り、戦前は枢密顧問官の頭職にもついた。「日本経済史」「二千六百年史」等の著書がある。

鈴木大拙先生の“Essays in Zen Buddhism” First-Third Series はロンドン Luzac から1927—34年に出版された。先生の“Outline of Mahayana Buddhism”ははるかに以前1907年に同じく Luzac から出ている。

そのほか異色のものでは、トク・ベルツ編の“Erwin Bälz; Das Leben eines deutschen Arztes im erwachenden Japan: Tagebücher, Briefe, Berichte.”のち日本訳された「ベルツ日記」が1931年にスツットガルトの J. Engelhorn から出た。なお、いろいろあるが今回はこの辺で。

海外ニュース

「リースコとパーガモンの合併」

英国商務省は Leasco 社と Pergamon 社の合併問題を、独占委員会にかけるつもりはないことを言明した。

リースコ社は、パーガモン社の既存の業務を維持し、拡張すること、技術的、商業的に可能な限り英国製のコンピュータ機械を購入すること、英連邦内でインフォメーション・リトリバールとコンピュータ・サービスを進展させること、パーガモン社の実質的に少数な英国所有株をそのまま残すことなどを保証した。

(The Bookseller, 1969年7月26日号より)

「新しいリプリント会社」

リプリントを専門とする新しい出版社、Garland Press が、G. G. ボーデン氏によってニューヨークに設立された。

現在のところ、18世紀のイギリスの文芸批評の分野のオリジナル・テキスト、208点、225巻をファクシミリ版で刊行の予定である。このシリーズ全巻の価格は3,900ドルで、最初の100巻は、1970年6月までに出し、1970年12月には完結の予定である。

同社の創立者で社長の地位について G. G. ボーデン氏は、以前にボストンの経済コンサルタント会社に関係していた人である。副社長の S. ワイスマン氏は、古書店 Ximenes Rare Books の所有者であり、同じく副社長で編集部

門の長である R. ソコロフ氏は、ニューズウィーク誌の編著者である。副社長の M. スウイシンパンク氏は、製作部門担当で Three Acres Press の所有者である。

(Publishers' Weekly 1969年7月7日号より)

「スイスの出版統計」

スイスの1968年の出版統計が、デル・シュバイツェル・ブッフハンデル誌上に発表された。これによると、1968年の総出版点数は5,213点であり、1967年の5,270点より57点の減少を示した。内訳は、オリジナル4,560点(前年4,570点)、翻訳書653点(前年700点)であり、このうち重版は90点(前年133点)である。

分野別に目立った増減を見れば、経済・統計・社会科学が1967年より51点減の280点、教育が34点減の138点、地図が79点減の71点、文学書が11点減の808点、逆に増を示したのは、美術書が38点増の326点、地理・紀行が35点増の158点、哲学・心理学が21点増の155点などであった。

使用言語別には、ドイツ語はやや減少して3,613点から3,531点に、フランス語はやや増加して1,022点から1,067点に、イタリア語は85点から88点に、ロマンス語は41点から32点に、英語は199点から234点に、その他が310点から261点になっている。

(Der Schweizer Buchhandel, 1969年5月15日号より)

—— 紀伊国屋書店提供 ——

会 員 紹 介

《小さな資本で大企業を相手に》

終戦数年後の昭和24年いち早く発足した同社は、和書の対米輸出で事業の緒口を開いた。勿論占領下の当時の日本で正規の輸出入貿易のルートは閉ざされていたが、輸出品の見返りとして荒廃した日本人々が求めているファッションや産業・技術資料を入手することによって、戦後の洋書輸入の先駆となったのである。現在は輸出入とも多岐にわたり、世界特許製品ロック・ハードウェア・軽量工具・レジャー用品等の対欧米輸出が事業の過半を占め、輸入はケニス・スミスのゴルフ・クラブをはじめ各国の特選雑貨・イタリア製靴や靴木型等多彩なものがある。産業種別カタログ収集による産業情報の提供・欧米百貨店の通販カタログの取扱いなどが、他のテクニカル・ジャーナルの輸入と相まって智識情報の輸入部門を形成している。『小さな会社ですが大資本・大企業を相手とするユニークな業種で、愉しく仿ける職域である』と語る長野社長の声は明るい。

大 雅 貿 易 株 式 会 社

ニュース

- 仏国 Hachette 社 Mr. P. Messbauer 7月下旬来日。
- 英国 Cambridge U. P. の Overseas Sales Manager. Miss Joan Bunting 7月下旬来日。
- 8月3日付ジャパン・タイムズによればドイツの Axel Springer 社(新聞の出版社でベルリンの Springer 社とは関係なし)は東京事務所を開設する計画で、代表
- には「ハムブルクタ刊誌」の編集長 Martin Saller 氏(53)が予定されている。
- スットガルトのレクラム社と、岩波書店の販売部門である信山社は、この度レクラム文庫の販売について契約を結び、同文庫のすべてを常備販売することになった。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店のご案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

三洋出版貿易株式会社 ☎ (535) 3391

Camiceria e abbigliamento maschile

(Pub. Messaggerie Italiane, Milano)

丸善株式会社 ☎ (272) 7211

Pulse Rate and Pulse-Number Signals in Automatic

Control, Proceedings of the Symposium on.

Ed. by the National Technical Organizing

Committee. (Kultura, Budapest) ¥ 11,200

株式会社紀伊国屋書店 ☎ (354) 0131

Sauer und Auvermann, Frankfurt/main

Marx. Engels Historisch-Kritische Gesamtausgabe.

Abt. I: Bd. 1-7.

Abt. III: Bd. 1-4. Berlin. Moscow, 1927-1935.

Subs. Price ¥ 157,500

Price 173,250

Rand McNally

The International Atlas.

28×37.5 cm 556 p. ¥ 11,980

会 員 紹 介

《スリー HIGH カンパニィ》

株式会社 竹 内 書 店

竹内書店は昭和37年2月、もと紀伊国屋書店専務竹内博氏によって創立され以来「誠実」「高品質」「スピード」をモットーに洋書・和書・出版の各事業を推進し、ロンドン・エコノミスト社の Quarterly Economic Review 誌の日本総代理店として活躍する一方、良書の翻訳出版(驚くべき日本、企業よ信念を持て他)では日本再評価、経営時代の先鞭をつけるなど些か業界・顧客に寄与し得たものと自負しておりますが、コンピューターを核とする「情報社会」時代を迎えた今日、洋書・和書・出版の各事業部とも人文社会・経済・科学技術の諸分野で一段の飛躍をはかるべく全社員の努力を結集して氾濫する「情報=本」の厳しい選別と迅速な供給を、誠意あるサービスで裏打ちする創業以来の精神を堅持してゆきたいと念願しております。

High Fidelity, High Quality, High Speed.

7月11日の経営研究会、興味深く講師のお話を伺いました。期待通り(?)特効薬的な解答は得られませんでした。日常読んだり聞いたりして一通り理解している様な事柄でも、こうした集りが刺激となって改めて考えさせられる点も多く、そういう意味で今後ともこの種の研究会の開催をお願いしたいと思います。それにつけても我々の取引

先のお役所や大学や、そして税務署などが、事務能率の向上についてこの日研究された事柄の半分でも実行してくれたら、我々の方もずっと楽になるでしょうに。どこかで一大キャンペーンを起さぬものか、と果敢ない願いを抱いたことでした。(K・S)

COLES NOTES (カナダ)

文学, 語学, 歴史, 地理, 科学, 数学を
より深く理解し, 鑑賞するための
——それぞれのエキスパートによるガイダンス
——適確な評論的摘要
——論文作成のための詳細な助言
——更に深く研究する方々への提案
題材への興味を刺激し, 確実な勉強の習慣を助成すると教師も学生も推薦する評判のNOTES.

(注: Cliffs Notes はこのCOLES NOTES
のアメリカ版で, 輸出されません)

チャールズ・イー・タトル商会

本社 東京都文京区水道1丁目2番6号
郵便番号 112 電話 (811)7106-9
大阪支社 大阪市西区江戸堀5丁目155 (山越ビル新館)
郵便番号 550 電話 (443)6970・9
福岡出張所 福岡市上呉服町13番250
郵便番号 812 電話 (29) 5222

昭和44年8月 通巻第28号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329